

函館中部高等学校校歌

藤原 直樹 作詞
酒井 武雄 作曲

(1) ひばしらの はためく みねも としふりてみどりの がぎゅううがのうら—かぜ
(4) かぎりなきるてん の なかに いのちありふえの まなびや きけやい—まど

のすな—やま なみ—よせ てく—ずれ ながる る みよやもの な
のとと—おく に い—じお のいりくる ひ—びき よしさらば わ

べ—て うつろ—う き わみなしるてん のす—が た きん のす—が た
こ—ど われ—ら ふ まんかなきぼ—の か—ど ふ —の か—ど

一、火柱のはためく峰も
年古りて緑の臥牛
宇賀の浦風の砂山
波寄せてくずれ流るる
見よや物なべて移ろう
弱みなし流転の相

二、北の国雪深けれど
その底に草はめぐめり
野山荒れ鳥ひそめども
やがて来ん春の光に
万象の蘇る見よ
こ、にあり不滅の生命

三、白楊のさやめく丘辺
秋深き梢仰げば
牙え渡る銀河の彼方
幽けくぞ星雲燃ゆる
胸に満つ久遠の思い
遥かなり真理の彼岸

四、限りなき流転の中に
生命あり不壊の学舎
開けや今窓の外遠く
新潮の入り来るひびき
よしさらば若人我等
踏まんなかな希望の門途
踏まんなかな希望の門途

函館中学校校歌 (白楊ヶ丘同窓会歌)

土井 晩翠 作詞
岡野 貞一 作曲

1. げん め—いの き たのいちどう かん も—んの き しにのぞみて せいしんの
2. つ どの よる せん よのしてい じん せ—いの は なのはころび みをきこえ

か—おりに し る—く もといおく い くえい の —に わ
こ—ころを ね り—て こう—じょうの い ちろを た —ど る

一、玄冥の北の一途
関門の岸に臨みて
青春の薫にしろく
基おく育英の場

二、集い寄る千余の子弟
人生の花の綻び
身を鍛え心を練りて
向上の一路を辿る

三、宇賀の浦万頃の水
駒ヶ岳千仞の山
微を積み高きに至り
滴より空をもひたす

四、形ある無言の教え
仰げ我が紅顔の子弟
業ならば双の肩の上
興国の運も負えかし

五、母校の名子弟の誉
花と香と常に伴う
任重く道の遠きを
嗚呼健児勉めざらめや